

令和 7 年度

2 年 生

授 業 展 開 計 画

滋賀県立甲西高等学校

目 次

	ページ
1 国 語	
(1) 論理国語	1
(2) 古典演習	3
(3) 古典探究	5
2 地歴・公民	
(1) 日本史探究	7
(2) 世界史探究	9
(3) 公 共	11
3 数 学	
(1) 数学Ⅱ	13
(2) 数学B	17
(3) 数学C	19
4 理 科	
(1) 物理基礎（生物選択者）	21
(2) 物理基礎（物理選択者）	23
(3) 物 理	25
(4) 化 学	27
(5) 生 物	29
(6) 地学基礎	31
5 保健体育	
(1) 体 育	33
(2) 保 健	35
6 芸 術	
(1) 音楽Ⅱ	37
(2) 美術Ⅱ	39
(3) 書道Ⅱ	41
7 外国語	
(1) 英語コミュニケーションⅡ	43
(2) 論理・表現Ⅱ	45
8 家 庭	
(1) 家庭基礎	47

令和7年度 国語科

科目名	論理国語		学年	類型・コース	単位数
			2	全員	2
学習の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
使用教材	教科書：「探求論理国語」（桐原書店） 副教材：『『探求論路国語』がひらく世界 近代小説四選』（桐原書店） 「入試漢字コア 2800 改訂版」（桐原書店）、「評論速読トレーニング 1000」（数研出版）				
評価	評価法	定期考査、小テスト、パフォーマンス課題、ノート、ふりかえりシートで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	
		b	思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元名	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	7	評論文の読み取り方を理解する 「いのちは誰のものか」（鷲田清一）	<ul style="list-style-type: none"> 論理展開が明快な文章を読んで、評論の基本的な読み方を習得する。 「共感」「ともに生きる」という観点から人間の存在についての思索を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査（思考力・判断力） 	<ul style="list-style-type: none"> ふりかえりシート ノート
	5						
	6	9	論文を読む 「変身に伴う快楽と恐れ—『山月記』を通じて」（宮原浩二郎）	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉えるとともに、小説を読み解く視点を広げる。 小説の読了後、論理的な視点で自身の考えがもてる。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査（思考力・判断力） 	<ul style="list-style-type: none"> ふりかえりシート ノート
	7	4	全国高校「四字熟語」総選挙に投票する	<ul style="list-style-type: none"> 漢字や四字熟語に注目してその価値を再認識する。 実用的な文章の読み解き方を習得し、実社会でも役立つ文章作成力を養成するとともに、実社会との関わりを実感をもって捉える。 		<ul style="list-style-type: none"> レポート 	<ul style="list-style-type: none"> ふりかえりシート ノート

2 学 期	9	10	自然との共生について考察する 「木を伐る人／植える人」(赤坂憲雄) 「なめとこ山の熊」(宮沢賢治)	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉えるとともに、自然との共生の困難さについて考える。 参考「〈知〉の深化」を通して、自然と人間の関係を見つめ直し、思索を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査（思考力・判断力） 	<ul style="list-style-type: none"> ふりかえりシート ノート
	10	10	論文を読む 「淋しい人間—『こころ』を通じて」(山崎正和)	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉えるとともに、小説を読み解く視点を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査（思考力・判断力） 	<ul style="list-style-type: none"> ふりかえりシート ノート
	11						
	12	10	筆者の考えを受けて、自身の考えをもつ ロボットは心を持つか（黒崎政男） そもそも心とは何か（石黒浩）	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉える。 進歩する技術とともに人間のありようについての自らの考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査（思考力・判断力） 	<ul style="list-style-type: none"> ふりかえりシート ノート
3 学 期	1	7	現代の課題を考察する 「暴力はどこからきたか」(山極寿一)	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉える。 人類学・社会科学の知見を基に、共同体についての考えや、「民主主義」「自由」「近代化」などの普遍的な主題への理解を深め、日本の近代化の問題点を現代の課題として捉え直す。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査（思考力・判断力） 	<ul style="list-style-type: none"> ふりかえりシート ノート
	2	8	「である」と「する」こと（丸山真男）		<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査（思考力・判断力） 	<ul style="list-style-type: none"> ふりかえりシート ノート
	3	5	志望理由を書く	<ul style="list-style-type: none"> 実社会でも役立つ文章作成力を養成するとともに、実社会との関わりを、実感をもって捉える。 		<ul style="list-style-type: none"> 志望理由書 	<ul style="list-style-type: none"> ふりかえりシート ノート

担当者からのメッセージ（学習方法など）

授業中や家庭学習の課題には、間違いをおそれずに粘り強く取り組みましょう。言葉は覚えるだけではなく、活用して初めて自分の力となります。授業で学んだ評論の構成や表現上の工夫も、自分の意見文や課題作成に積極的に取り入れましょう。

論理的思考を鍛えるとともに、漢字や語句について意味・語源・間違いやすい所などを意識してしっかり覚えていくようにしましょう。高校生のうちに語彙を豊かにすると、表現の幅が広がります。

令和7年度 国語科

科目名	古典演習		学年	類型・コース	単位数
			2	理系	2
学習の目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (1)説話的な内容をはじめ幅広いジャンルにふれ。読解力を高める。 (2)古文は助動詞と助詞を中心に、漢文は一通りの句形に習熟する。 (3)内容を理解し、現代語訳問題とともに、記述問題にも取り組む。				
使用教材	「新国語総合ガイド 五訂版」(京都書房) 「精選漢文」(尚文出版) 「古文単語 315 四訂版」(桐原書店) 「新しい古典文法」(桐原書店) 「新成古典 大学入試共通テスト対策 新訂版 2」(尚文出版)				
評価	評価法	定期考査、小テスト、プリントで評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	古典読解に必要な知識や技能を身につけている。	
		b	思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元名	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	6	<ul style="list-style-type: none"> 基本知識の確認 問題演習 	<ul style="list-style-type: none"> 「古文単語315」「古典文法」を用いて基礎知識確認をする。 「精選漢文」を用いて、漢文を読むための基礎的な知識を確認する。 「新成古典 大学入試共通テスト対策 新訂版2」を用いた問題演習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> プリント
	5	8					
	6	8					
	7	2					

2 学期	9	12	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・「新成古典 大学入試共通テスト対策 新訂版2」を用いた問題演習を行う。 ・並行して、古文単語、古典文法、漢文の基礎知識の実践問題に取り組む。 ・問題演習に取り組む。 ・基礎事項全般の確認と問題演習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント
	10	10					
	11	10					
	12	4					
3 学期	1	10	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎事項全般の確認と問題演習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント
	2						
	3						

担当者からのメッセージ（学習方法など）

読解力や語彙力、記述・論述力がある程度確立された上で、難解な文章に直面した時、それらをどのように総合的に活用するか、あるいは設問を解く手がかりの発見の方法など、具体的なノウハウを習得するのが、国語演習の授業の目標とするところです。

そのためには、問題文の本文を読み、設問に取り組む上で、自分の思考の過程、その答えに至った道筋をきちんと確認しておくことが重要です。解答・解説時には、なぜそのような正答になるのか、自分の答えはどこで間違ってしまったのかを振り返り、次回に活かすことが、自分の読解力の向上につながります。また、現代文では、その問題文の中に書かれている論旨や主題も、自分が人間とその営みについて見識を深める意味では大変参考になるはずです。

表現分野についても、文章を組み立て、書くという姿勢を忘れないでください。授業中や家庭学習の課題には、間違いをおそれずに粘り強く取り組みましょう。言葉は覚えるだけではなく、活用して初めて自分の力となります。授業で学んだ評論の構成や表現上の工夫も、自分の意見文や課題作成に積極的に取り入れましょう。

論理的思考を鍛えるとともに、漢字や語句について意味・語源・間違いやすい所などを意識してしっかり覚えていくようにしましょう。高校生のうちに語彙を豊かにすると、表現の幅が広がります。

令和7年度 国語科

科目名	古典探究		学年	類型・コース	単位数
			2	文系	4
学習の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
使用教材	教科書：「高等学校 古典探究」（数研出版） 副教材：「三訂版プログレス古文総復習 標準編」（いっずな書店）、「リテラ速読レッスン古文 vol.1」（文英堂）				
評価	評価法	予習の状況、授業中の態度、小テスト、提出物等を加味し、定期考査を中心に、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度についての3つの観点から総合的に評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	
		b	思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	8	単元「説話・物語と和歌の関係」 『伊勢物語』「初冠」	・歌物語の理解 ・歌に詠まれた心情を理解し、物語の主題と構成を読み取る	定期考査 小テスト	定期考査	ノート提出 小テスト
	5	8	『大和物語』 「をばすて」	・展開や内容の的確な把握 ・和歌の修辞	定期考査 小テスト	定期考査	ノート提出 小テスト
	6	8	単元「漢文訓読の基礎」 『歴代名画記』 「画竜点睛」	・登場人物の人物像についての考察 ・漢文の語彙の習得	定期考査 小テスト	定期考査	ノート提出 小テスト
		8	単元「枕草子に見る 宮廷生活」 『枕草子』 「大納言殿参り給ひて」	・随筆の構成や展開、内容の的確な理解 ・我が国の文化と外国の文化との関係についての理解	定期考査 小テスト	定期考査	ノート提出 小テスト
	7	8	単元「漢詩を読む」 「鹿柴」「江南春」 「黄鶴楼」	・漢詩の表現や技法への理解 ・構成や展開、内容の的確な把握	定期考査 小テスト	定期考査	ノート提出 小テスト

2 学 期	9	10	単元「長編物語の人物造形や心理描写の理解」 『更級日記』 「東路の道の果て」 「物語」	・少女時代の自分を客観的に見つめた作者像に触れる ・日記文学の構成や展開、内容の的確な把握	定期 考査 小テスト	定期 考査	ハート提出 小テスト
	10	20	『源氏物語』 「光源氏誕生」 「小柴垣のもと」	・敬語表現の習得 ・『源氏物語』の文学史的知識の習得	定期 考査 小テスト	定期 考査	ハート提出 小テスト
	11	20	単元「史伝を読む」 『史記』「鴻門之会」	・漢文の句法の習得 ・史伝を読み、人間の生き方について考察する	定期 考査	定期 考査	ハート提出 小テスト
	12	10	単元「歴史物語を読む」 『大鏡』 「花山天皇の出家」	・歴史物語の特徴の理解 ・構成や展開、内容の的確な把握 ・敬語表現の習得	定期 考査 小テスト	定期 考査	ハート提出 小テスト
3 学 期	1	18	単元「軍記物語から無常観を学ぶ」 『平家物語』 「壇ノ浦」	・登場人物の行動や思想、歴史的背景の理解 ・軍記物語や和漢混交文の理解 ・音便知識の習得	定期 考査 小テスト	定期 考査	ハート提出 小テスト
	2	10	単元「史伝を読み解く」 『史記』(四面楚歌)	・漢文が日本語に与えた影響の理解 ・故事成語の意味の調査	定期 考査	定期 考査	ハート提出
	3	12	単元「思想を比較し、自身の考えを深める」 孟子「性善」 荀子「性悪」	・漢文世界の思想の多様性の理解 ・作者の意図に基づいた内容の解釈	定期 考査 小テスト	定期 考査	ハート提出 小テスト

担当者からのメッセージ（学習方法など）

・必ず予習をして、授業に臨んでください。予習を前提に授業を進めます。ガイドなどを写しても、作業にしかありません。必ず自分で取り組むこと。

・一年生で学んだ文法分野の理解を深めて下さい。用言・助動詞・助詞・副詞などの理解が古典学習の基礎です。文法分野は常に復習をして定着をめざして下さい。

・文学史分野は、丸暗記ではなく本文の背景として理解を深めたり、様々な作品においても関連してくる事項ですので、確実に理解して下さい。文学史の知識が、本文理解を助ける鍵となります。

・「プログレス古文」など演習問題は、自力で取り組んだ上で、解答を熟読して下さい。重要古語については「古文単語」で確認するなど、それぞれ関連させて学習しましょう。

令和7年度 地理歴史科

科目名	日本史探究		学年	類型・コース	単位数
			2	文系	3
学習の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				
使用教材	教科書：詳説日本史（山川出版社） 副教材：新詳日本史（浜島書店）、日本史重要語句 Check List（啓隆社）				
評価	評価法	課題考査・定期考査、授業課題・提出物、授業態度等を総合して評価します。1学期、2学期、3学期の成績を総合的に判断して、年間の学習成績とします。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	
		b	思考・判断・表現	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	30	第1章	日本文化のあけぼの	考査	考査	ワークシート
	5		第2章	古墳とヤマト政権			
	6		第3章	律令国家の形成			
	7		第4章 第5章 第6章 第7章	貴族政治の展開 院政と武士の躍進 武家政権の成立 武家社会の成長	考査	考査 レポート	ワークシート レポート

2 学期	9	45	第7章	武家社会の成長 近世の幕開け 幕藩体制の成立と展開	考査	考査	ワー クノ ート
	10		第8章				
	11		第9章				
	12		第10章 第11章 第12章 第13章				
3 学期	1	30	第13章	近代国家の展開 近代の産業と生活 恐慌と第二次世界大戦 占領下の日本 高度成長の時代 激動する世界と日本	考査	レポ ート	レポ ート
	2		第14章				
	3		第15章 第16章 第17章 第18章				

担当者からのメッセージ（学習方法など）

【授業】様々な歴史上の出来事に対して、「なぜ？」と疑問を持つことが大切です。また、歴史上の出来事に対する考え方は人それぞれです。授業中は、教員と、そしてクラスメイトと積極的に対話をおこなうようにしていきましょう。

【家庭学習】まずは、時代のイメージを大きくつかんだうえで、様々な出来事の流れ・つながりを押さえましょう。次に、重要ポイントを図や表、地図にまとめながらインプットしていきましょう。最後に、問題を解いて知識の定着度を確認しましょう。

令和7年度 地理歴史科

科目名	世界史探究		学年	類型・コース	単位数
			2	文系	3
学習の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身につける。				
使用教材	教科書：新詳世界史探究（帝国書院） 副教材：総合マスター 世界史（浜島書店） グローバルワイド最新世界史図表（第一学習社）				
評価	評価法	定期考査・ワークノート・レポート・発表などから総合的に判断して評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	
		b	思考・判断・表現	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目 ・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4	30	1部	世界史へのまなざし	考査	考査	ワーク ノート
	2部序章		古代文明の歴史的特質				
	2部1章						
	1節		中華文明の形成				
	2節		秦漢帝国と東アジア				
	3節		中央ユーラシアと遊牧国家				
	4節		遊牧帝国の興亡と移動				
	5節		ユーラシアの変動と東アジア				
	2部2章						
	1節		南アジアの文明と国家形成				
	2節		東南アジアの社会と国家形成				
	2部3章						
	1節		オリエント文明の興亡				
	2節		地中海周辺の国家形成				
	3節		地中海周辺と西アジアの帝国				
	4節		ヨーロッパへ広がるキリスト教				
	5節		イスラームの誕生				
	3部1章						
	1節		イスラーム世界の拡大				
	2節		ヨーロッパ封建社会の展開				
3節	東アジア諸地域の成長と自立						
4節	ユーラシア大帝国の出現						

2 学期	9	45	3部2章	明の国際秩序と東・東南アジア 世界帝国清とアジア諸国の成熟 スペインとポルトガルの進出 イスラーム世界の成熟				
	10		1節					
			2節					
			3節					
			4節					
			3部3章					
			1節					
			2節					
			3節					
	11		4節					
			4部1章					
			1節					
			2節					
	12		3節					
			4節					
			4部2章					
1節								
		45	2節	イギリスの覇権と自由主義 ヨーロッパに広がる国民国家 アメリカ合衆国の拡大と国民統合	考查	考查	ワーク ー ト	
			3節					
			4節					
			4部3章					
			1節					
			2節					
			3節					
			4部4章					
			1節					
			2節					
			4部5章					
			1節					
			2節					
			3節					
			4節					
			4部6章					
3 学期	1	30	5部1章	集団安全保障と冷戦の展開 多極化の始まり 新しい国際秩序を求めて				
			1節					
			2節					
	2		3節					
			5部2章					
	3		1節					
			2節					
			5部3章					
			5部4章					
								5部3章
								5部4章
								5部3章
5部4章								
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4章						
		5部3章						
		5部4						

令和7年度 公民科

科目名	公共		学年	類型・コース	単位数
			2	全員	2
学習の目標	現実社会の諸課題について理解・考察できるように、さまざまな情報を効果的に調べまとめる技能を身につける。それをもとに、他者といっしょに社会をつくっていく主体としての自立した市民、民主主義社会の形成者となる市民を育てることを目標とする。				
使用教材	教科書：高等学校 公共（帝国書院） 副教材：高等学校 公共ノート（帝国書院）				
評価	評価法	定期考査・ワークノート・レポート・発表・討論などから総合的に判断して評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	倫理・政治・経済などに関わる基本的な用語や概念を理解している。 諸資料からさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめられる。	
		b	思考・判断・表現	理解した概念やまとめた情報を使って、多面的・多角的に考察したり、 解決に向けて公正に判断することができる。自分の考えを効果的に説明したり、議論して合意を形成することができる。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	民主主義社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の 諸課題を主体的に解決しようとしている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	20	・ 社会の中の私たち	・ 青年期と社会参画	考査	レポート	ワークノート
	5				考査	考査	討論
	6		・ 思想から学ぶべきもの	・ 宗教・思想・伝統文化と社会	考査	レポート	ワークノート
	7			・ 倫理的な見方・考え方		考査	討論

2 学期	9	30	・ 私たちの社会の 基本原理	・ 社会の基本原理と憲法の考え方	考査	レポ ート 考査	ワー ーク ハート 討 論
	10		・ 私たちと法	・ 法の意義と司法参加	考査	レポ ート 考査	ワー ーク ハート 討 論
	11		・ 私たちと政治	・ 民主社会と政治参加	考査	レポ ート 考査	ワー ーク ハート 討 論
	12			・ 国際政治の動向と平和の追求	考査	レポ ート 考査	ワー ーク ハート 討 論
3 学期	1	20	・ 持続可能な社会 づくりの主体とな る私たち	・ 課題探究の観点 ・ 課題探究の手引き 1年のまとめとしての探究学習	考査	レポ ート 考査	ワー ーク ハート 討 論
	2						
	3						発表

担当者からのメッセージ（学習方法など）

「個」が集まって「公共」的な空間ができます。『公共』の授業では、個別の学習で教科書にある膨大な知識や概念を暗記するのではなく、グループで調べたり議論したりすることで、今の世界や日本の社会に目を開き、他者の立場を理解し共感できる力をつけましょう。最も身近な公共空間は教室です。『公共』の授業を通して、教室の仲間とともに学びが深まり、世界が広がることを期待します。

令和7年度 数学科

科目名	数学Ⅱ		学年	類型・コース	単位数
			2	全員	4
学習の目標	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。				
使用教材	教科書：新編 数学Ⅱ（数研出版） 副教材：基本と演習テーマ 数学Ⅱ+B（数研出版）※全員 チャート式 新課程 解法と演習 数学Ⅱ+B+C（数研出版）※文系Aおよび理系のみ				
評価	評価法	定期考査、確認テスト、課題考査、課題（ワーク）やレポート等の提出物、振り返りシート、学習活動への取り組み状況を踏まえて、観点別評価を行い、総合的に評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	「数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力」，「座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力」，「関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力」，「関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力」を身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	「数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度」，「粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度」，「問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度」や創造性の基礎を身に付けている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4月	15	第1章 式と証明	第1節 式と計算 1. 3次式の展開と因数分解 2. 二項定理 3. 多項式の割り算 4. 分数式とその計算 5. 恒等式	確認 テスト		振 返 り シ ー ト
	5月			第2節 等式・不等式の証明 6. 等式の証明 7. 不等式の証明 整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに，等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。	中 間 考 査	中 間 考 査	ワ ー ク

	6月	13	第2章 複素数と方程式	<p>第1節 複素数と2次方程式の解</p> <p>1. 複素数とその計算</p> <p>2. 2次方程式の解</p> <p>3. 解と係数の関係</p> <p>方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことができるようにする。</p> <p>第2節 高次方程式</p> <p>4. 剰余の定理と因数定理</p> <p>5. 高次方程式</p> <p>剰余の定理や因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。</p>	確認 テスト		振 り 返 り シ ー ト
	7月				期 末 考 査	期 末 考 査	ワ ー ク
		12	第3章 図形と方程式	<p>第1節 点と直線</p> <p>1. 直線上の点</p> <p>2. 平面上の点</p> <p>3. 直線の方程式</p> <p>4. 2直線の関係</p> <p>座標や式を用いて、直線の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。</p>	確認 テスト		振 り 返 り シ ー ト ワ ー ク
	8月			1学期の学習内容の復習 (教科書や参考書チャートの例題などを用いる)	課 題 考 査	課 題 考 査	夏 休 み 課 題
2 学 期	9月	21	第3章 図形と方程式	<p>第2節 円</p> <p>5. 円の方程式</p> <p>6. 円と直線</p> <p>7. 2つの円</p> <p>座標や式を用いて、円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>第3節 軌跡と領域</p> <p>8. 軌跡と方程式</p> <p>9. 不等式の表す領域</p> <p>図形を、与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上的領域を表すことを理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p>	確 認 テ ス ト		振 り 返 り シ ー ト

	10月	25	第4章 三角関数	<p>第1節 三角関数</p> <p>1. 角の拡張 2. 三角関数 3. 三角関数のグラフ 4. 三角関数の性質 5. 三角関数の応用</p> <p>角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。</p> <p>第2節 加法定理</p> <p>6. 加法定理 7. 加法定理の応用</p> <p>加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p>	中間 考查	中間 考查	ワーク
	11月				確認 テスト		振り返り シート
	12月	14	第5章 指数関数と 対数関数	<p>第1節 指数関数</p> <p>1. 指数の拡張 2. 指数関数</p> <p>指数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p>	期末 考查	期末 考查	ワーク
					確認 テスト	レポート	振り返り シート
3 学期	1月			2学期の学習内容の復習 (教科書や参考書チャートの例題などを用いる)	課題 考查	課題 考查	冬休み 課題
		15		<p>第2節 対数関数</p> <p>3. 対数とその性質 4. 対数関数 5. 常用対数</p> <p>対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p>	確認 テスト		振り返り シート

	2月	25	第5章 微分法と積分法	<p>第1節 微分係数と導関数</p> <p>1. 微分係数</p> <p>2. 導関数とその計算</p> <p>3. 接線の方程式</p> <p>微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>第2節 関数の値の変化</p> <p>4. 関数の増減と極大・極小</p> <p>5. 関数の増減・グラフの応用</p> <p>導関数の理解を深めるとともに、導関数の有用性を認識できるようにする。</p> <p>第3節 積分法</p> <p>6. 不定積分</p> <p>7. 定積分</p> <p>8. 定積分と面積</p> <p>積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>課題学習</p>	確認テスト		振り返りシート
	3月				学年末調査	学年末調査	ワーク

担当者からのメッセージ（学習方法など）

数学Ⅱでは、微分法や積分法をはじめ、他のさまざまな分野で応用される数学における非常に重要な概念を学習します。授業では、単に解き方を覚えるのではなく、考える時間を大切にしてください。授業での学習活動の取り組み状況も振り返りシートなどを用いて評価します。授業で学んだその日のうちにワークで復習を行い、公式の基本的な使い方を身に付けて次の授業に臨んでください。余裕のある人は自主的に参考書の問題に取り組み、応用力を身に付けましょう。最後に、わからない問題は教科書や参考書で類題を調べたり、先生や友人などに聞くなどしたりして積極的に問題解決に向けて行動しましょう。いつでも質問に来てください。

令和7年度 数学科

科目名	数学B		学年	類型・コース	単位数
			2	文系A・理系	1
学習の目標	数列について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を 培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
使用教材	教科書：新編 数学B（数研出版） 副教材：基本と演習テーマ 数学Ⅱ+B （数研出版） チャート式 新課程 解法と演習 数学Ⅱ+B+C（数研出版）				
評価	評価法	定期考査、確認テスト、課題考査、課題（ワーク）やレポート等の提出物、振り返りシート、 学習活動への取り組み状況を踏まえて、観点別評価を行い、総合的に評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	数列についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事 象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技 能を身に付けるようにする。	
		b	思考・判断・表現	「離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力」、「日 常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を 振り返って考察したりする力」を身に付けている。	
		c	主体的に学習に 取り組む態度	「数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度」、「粘り強く柔軟に考え 数学的論拠に基づいて判断しようとする態度」、「問題解決の過程を振り返っ て考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度」や創造性の基礎を 身に付けている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～ 5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4月	10	第1章 数列	第1節 等差数列と等比数列 1. 数列と一般項 2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和 数列やその一般項の表し方について理解する。また、基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	確認テスト		振り返りシート
	5月				中間考査	中間考査	ワーク
	6月				確認テスト		振り返りシート
	7月				期末考査	期末考査	ワーク

2 学期	8 月			1 学期の学習内容の復習 (教科書や参考書チャートの例題などを用いる)	課 題 考 査	課 題 考 査	夏休み 課題
	9 月	15		第 2 節 いろいろな数列 6. 和の記号 Σ 7. 階差数列 8. いろいろな数列の和	確 認 テ ス ト		振 り 返 り シ ー ト
	10 月			和の記号 Σ の表し方や性質を理解し、活用できるようにする。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。	中 間 考 査	中 間 考 査	ワ ー ク
	11 月				確 認 テ ス ト		振 り 返 り シ ー ト
	12 月				期 末 考 査	期 末 考 査	ワ ー ク
3 学期	1 月			2 学期の学習内容の復習 (教科書や参考書チャートの例題などを用いる)	課 題 考 査	課 題 考 査	冬休み 課題
	2 月	10		第 3 節 漸化式と数学的帰納法 9. 漸化式 10. 数学的帰納法	確 認 テ ス ト		振 り 返 り シ ー ト
	3 月			数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また、数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。	学 年 末 考 査	学 年 末 考 査	ワ ー ク

担当者からのメッセージ（学習方法など）

数学 B では、「数列」について学習します。授業では、単に解き方を覚えるのではなく、考える時間を大切にしてください。授業での学習活動の取り組み状況も振り返りシートなどを用いて評価します。授業で学んだその日のうちにワークで復習を行い、公式の基本的な使い方を身に付けて次の授業に臨んでください。余裕のある人は自主的に参考書の問題に取り組み、応用力を身に付けましょう。最後に、わからない問題は教科書や参考書で類題を調べたり、先生や友人などに聞くなどしたりして積極的に問題解決に向けて行動しましょう。いつでも質問に来てください。

令和7年度 数学科

科目名	数学C		学年	類型・コース	単位数
			2	文系A・理系	1
学習の目標	ベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
使用教材	教科書：新編 数学C（数研出版） 副教材：基本と演習テーマ 数学C（数研出版） チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B+C（数研出版）				
評価	評価法	定期考査、確認テスト、課題考査、課題（ワーク）やレポート等の提出物、振り返りシート、学習活動への取り組み状況を踏まえて、観点別評価を行い、総合的に評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	
		b	思考・判断・表現	大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4月	10	第1章 平面上のベクトル	第1節 ベクトルとその演算 1. ベクトル 2. ベクトルの演算 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また、ベクトルの内積について理解し、平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。	確認テスト		振り返りシート
	5月				中間考査		ワーク
	6月						
	7月						
	8月				確認テスト		振り返りシート

2 学 期	9 月	15		第2節 ベクトルと平面図形 5. 位置ベクトル 6. ベクトルの図形への応用 7. 図形のベクトルによる表示	確 認 テ ス ト		振 り 返 り シ ー ト
	10 月			位置ベクトルについて理解し、位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できるようにする。また、図形をベクトルを用いて表せることを理解し、基本的な図形のベクトル方程式を求めたり、ベクトル方程式が表す図形を求めたりできるようにする。	中 間 考 査	中 間 考 査	ワ ー ク
	11 月				確 認 テ ス ト		振 り 返 り シ ー ト
	12 月				期 末 考 査	期 末 考 査	ワ ー ク
					確 認 テ ス ト		振 り 返 り シ ー ト
3 学 期	1 月	10	第2章 空間のベクトル	1. 空間の点 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 5. ベクトルの図形への応用 6. 座標空間における図形	確 認 テ ス ト		振 り 返 り シ ー ト
	2 月			平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。また、それに関連して、座標空間における点や図形について考察できるようにする。	期 末 考 査	期 末 考 査	ワ ー ク
	3 月						

担当者からのメッセージ（学習方法など）

数学 C では、ベクトルといった、今まで培ってきた数学の概念とは異なった内容を学習します。授業では、単に解き方を覚えるのではなく、考える時間を大切にしてください。授業での学習活動の取り組み状況も振り返りシートなどを用いて評価します。授業で学んだその日のうちに復習を行い、公式の基本的な使い方を身に付けて次の授業に臨んでください。余裕のある人は自主的に参考書の問題に取り組み、応用力を身に付けましょう。最後に、わからない問題は教科書や参考書で類題を調べたり、先生や友人などに聞いたりなどして積極的に問題解決に向けて行動しましょう。いつでも質問に来てください。

令和7年度 理科

科目名	物理基礎		学年	類型・コース	単位数
			2	理系（生物選択者）	2
学習の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
使用教材	教科書：高等学校 物理基礎（第一学習社） 副教材：新課程版ネオパルノート 物理基礎（第一学習社）				
評価	評価法	定期考査、小テスト、実験レポート、授業態度、提出物等で評価をします。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。 さまざまな物理現象を論理的に考察・分析し、その本質を原理や法則から説明できる。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	8	第Ⅰ章 運動とエネルギー 第1節 物体の運動	① 速度	定期考査	定期考査	小テスト
	5			② 加速度 ③ 落下運動			
	6	12	第2節 力と運動の法則	① さまざまな力	定期考査 小テスト	定期考査	小テスト 提出
	7			② 力の合成・分解とつりあい ③ 運動の3法則 ④ 運動方程式の利用 ⑤ 摩擦力を受ける運動 ⑥ 液体や気体から受ける力			

2 学期	9	8	第3節 仕事と力学的エネルギー	① 仕事と仕事率 ② 運動エネルギー ⑤ 位置エネルギー ④ 力学的エネルギー	定期 考查 小テ スト	定期 考查 実験	小テ スト 提出
	10	8	第Ⅱ章 熱 第1節 熱とエネルギー	① 熱と温度 ② エネルギーの変換と保存	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 提出
	11	8	第Ⅲ章 波動 第1節 波の性質	① 波の表し方と波の要素 ② 波の重ね合わせと反射 ③ 波の干渉・反射・屈折・回折	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 提出
	12	6	第2節 音波	① 音波の性質 ② 物体の振動 ③ ドップラー効果	定期 考查 小テ スト	定期 考查 観察	小テ スト 提出
3 学期	1	8	第Ⅳ章 電気 第1節 静電気と電流	① 静電気 ② 電流と抵抗 ③ 電気エネルギー	定期 考查 小テ スト	定期 考查 実験	小テ スト 提出
	2	6	第2節 電流と磁場	① 磁場 ② モーターと発電機 ③ 交流と電磁波	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 提出
	3	6	第3節 エネルギーとその利用	① 太陽エネルギーと化石燃料 ② 原子力エネルギー	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 提出

担当者からのメッセージ（学習方法など）

授業内容はその時間中に消化するつもりで集中して取り組みましょう。また、復習や考查勉強は授業プリントや問題集を利用して行いましょう。物理は学問的なルールを受け入れて、いかに正しく現象に対して適用できるかが問われます。論理的思考力が非常に大切となるので、「この式は何を意味しているか」「なぜそうなるか」といった点を重視して学習に取り組みましょう。

令和7年度 理科

科目名	物理基礎		学年	類型・コース	単位数
			2	理系（物理選択者）	2
学習の目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、観察や実験を通して物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。				
使用教材	教科書：高等学校 物理基礎（第一学習社） 副教材：セミナー物理基礎＋物理（第一学習社）				
評価	評価法	定期考査、小テスト、実験レポート、授業態度、提出物等で評価をします。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。 さまざまな物理現象を論理的に考察・分析し、その本質を原理や法則から説明できる。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	10	第1編 運動とエネルギー	① 速度	定期考査	定期考査	小テスト
			第1章 運動の表し方	② 加速度 ③ 落体の運動			
	5	12	第2章 運動の法則	① 力とそのはたらき	定期考査	定期考査	小テスト
				② 力のつりあい ③ 運動の法則 ④ 摩擦を受ける運動 ⑤ 液体や気体から受ける力			
					小テスト		課題

1 学 期	6	9	第3章 仕事と力学的エ ネルギー	① 仕事 ② 運動エネルギー ③ 位置エネルギー ④ 力学的エネルギーの保存	定期 考查 小テ スト	定期 考查 実験	小テ スト 課題
		6	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー	① 熱と熱量 ② 熱と物質の状態 ③ 熱と仕事 ④ 不可逆変化と熱機関	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 課題
		6	第3編 波 第1章 波の性質	① 波と媒質の運動 ② 波の伝わり方	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 課題
		7	第2章 音	① 音の性質 ② 発音体の振動と共振・共鳴	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 課題
	7	7	第4編 電気 第1章 物質と電気	① 電気の性質 ② 電流と電気抵抗 ③ 電気とエネルギー	定期 考查 小テ スト	定期 考查 実験	小テ スト 課題
		5	第2章 磁場と交流	① 電流と磁場 ② 交流と電磁波	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 課題
		5	第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーの利 用	① エネルギーの移り変わり ② エネルギー資源と発電	定期 考查 小テ スト	定期 考查	小テ スト 課題
		3	第2章 物理学が拓く世 界	① 摩擦をコントロールする ② エネルギーを有効利用する <div>物理基礎の授業は1学期末で終了します</div>	小テ スト		課題

担当者からのメッセージ（学習方法など）

授業内容はその時間中に消化するつもりで集中して取り組みましょう。また、復習や考查勉強は授業プリントや問題集を利用して行いましょう。物理は学問的なルールを受け入れて、いかに正しく現象に対して適用できるかが問われます。論理的思考力が非常に大切となるので、「この式は何を意味しているか」「なぜそうなるか」といった点を重視して学習に取り組みましょう。

令和7年度 理科

科目名	物理		学年	類型・コース	単位数
			2	理系	3
学習の目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、観察や実験を通して物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。				
使用教材	教科書：高等学校 物理（第一学習社） 副教材：セミナー物理基礎＋物理（第一学習社）				
評価	評価法	定期考査、小テスト、実験レポート、授業態度、提出物等で評価をします。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。 さまざまな物理現象を論理的に考察・分析し、その本質を原理や法則から説明できる。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
2学期	9	15	第Ⅰ章 運動とエネルギー 第1節 平面運動と放物運動	<div>物理の授業は2学期から開始します</div> 1 平面運動 2 放物運動	定期考査 小テスト	定期考査 実験	小テスト 課題
	10	20	第2節 剛体のつりあい	1 剛体にはたらく力とその合力 2 剛体の重心とつりあい	定期考査 小テスト	定期考査	小テスト 課題

2 学 期	11	20	第3節 運動量の保存	1 運動量と力積 2 運動量保存の法則 3 反発係数	定期 考査 小テ スト	定期 考査 観 察	小テ スト 課 題
	12	30	第4節 円運動と単振動	1 円運動 2 等速円運動の角速度 3 慣性力と遠心力 4 単振動 5 万有引力による運動	定期 考査 小テ スト	定期 考査	小テ スト 課 題
3 学 期	1 2	20	第5節 気体の性 質と分子の運動	1 気体の法則 2 気体の分子運動 3 気体の内部エネルギーと仕事			

担当者からのメッセージ（学習方法など）

授業内容はその時間中に消化するつもりで集中して取り組みましょう。また、復習や考査勉強は授業プリントや問題集を利用して行いましょう。物理は学問的なルールを受け入れて、いかに正しく現象に対して適用できるかが問われます。論理的思考力が非常に大切となるので、「この式は何を意味しているか」「なぜそうなるか」といった点を重視して学習に取り組みましょう。

令和7年度 理科

科目名	化学	学年	類型・コース	単位数
		2	理系	2
学習の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。			
使用教材	教科書：「化学 Vol.1 理論編」「化学 Vol.2 物質編」（東京書籍） 副教材：「サイエンスビュー化学総合資料」（実教出版） 「新課程 ニューアチーブ 化学」（東京書籍） 「セミナー 化学基礎＋化学」（第一学習社）			
評価	評価法	定期考査、小テスト（適宜）、パフォーマンス課題、ノート、振り返りシート等を用いて総合的に評価をする。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	日常生活や社会との関わりを図りながら物質とその変化についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。
		c	主体的に学習に取り組む態度	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。			

期	月	時数	学習項目・単 元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	20	第1編 物質の状態 第1章 物質の状態 第2節 気体・液体間の状態変化	物質の状態とその変化を、構成粒子の存在状態とエネルギーの関係から学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題	振り返りシート レポート課題
	5		第2章 気体の性質 第1節 気体 第2節 気体の状態方程式	気体が示す性質について学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題	振り返りシート レポート課題
	6		第3章 溶液の性質 第1節 溶解 第2節 希薄溶液の性質	溶液やコロイドが示す性質について学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題	振り返りシート レポート課題
	7						

2 学 期	9		第3節 コロイド			
			第4章 固体の構造 第1節 結晶 第2節 金属結晶の構造 第3節 イオン結晶の構造 第4節 分子結晶と共有結合の結晶	固体の構造について学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題 振り返りシート レポート課題
	10	30	第2編 化学反応とエネルギー 第1章 化学反応と熱・光 第1節 反応とエンタルピー変化 第2節 ヘスの法則 第3節 光とエネルギー	化学反応におけるエネルギーの出入り と熱や光との関係を学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題 振り返りシート レポート課題
	11		第2章 電池と電気分解 第1節 電池 第2節 電気分解	化学エネルギーを電気エネルギーと して取り出したり、外部から加えた電気 エネルギーによって化学反応が起こっ たりする原理について学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題 振り返りシート レポート課題
	12		第3編 化学反応の速さと平衡 第1章 化学反応の速さ 第1節 反応の速さ	化学反応の速さの表し方や反応の速 さを決める条件、化学反応が起こるとき の仕組みなどについて学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題 振り返りシート レポート課題
3 学 期	1		第2節 反応速度を変える条件 第3節 反応のしくみ			
	2	20	第2章 化学平衡 第1節 可逆反応と化学平衡 第2節 平衡の移動	化学平衡の状態とは何かを学んだ後、 平衡定数を用いると平衡時の各物質の 物質質量や分圧が求められることにつ いて学ぶ。また、条件の変化に伴う平衡移 動についても学ぶ。	小テスト 定期考査	定期考査 レポート課題 振り返りシート レポート課題
	3					

担当者からのメッセージ（学習方法など）

「化学」は目には見えない小さな粒子達がどのように振る舞うのかを追いかけて、私たちの便利で豊かな生活を支えています。そんな「化学」を学習する上において以下のことを意識しましょう。

- 1 日常生活の中で使用する製品や身の周りで起こる化学現象に興味をもち、そのしくみについて考える態度をもつこと。
- 2 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。
- 3 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。
- 4 化学式など必要な知識や基本事項は自分なりにゴロを作ったりと工夫しながら確実に押さえること。
- 5 日常生活の中で使用する製品や身の周りで起こる化学現象に対し、「なぜ?」「どうして?」の視点を持ち、自分の言葉で説明しようと努力すること。
- 6 分からないところが出てきたら、ほっとかず、先生に聞きに行くなどして、できるだけ早く理解し、解決しましょう。

令和7年度 理科

科目名	生物	学年	類型・コース	単位数
		2	理系	3
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。 			
使用教材	教科書：高等学校 生物（第一学習社） 副教材：新課程版 セミナー生物基礎＋生物（第一学習社）			
評価	評価法	定期考査、小テスト、実験レポート、振り返りシート、授業態度、提出物等で評価をします。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身に付けている。
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。			

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	15	第1章 生物の進化	①生命の誕生 ②細胞の進化 ①遺伝子とその変化 ②遺伝子の組み合わせの変化 ①進化のしくみ ②種分化	定期考査	定期考査	小テスト
	5		1. 生命の起源と細胞の進化 2. 遺伝子の変化と遺伝子の組み合わせの変化 3. 進化のしくみ				
	6	15	第2章 生物の系統と進化	①生物の系統と分類 ②細菌（バクテリア）とアーキア（古細菌） ③真核生物（ユーカリア） ①人類の系統と進化	小テスト	定期考査	振り返りシート
	7		1. 生物の系統 2. 人類の系統と進化				

2 学 期	9	12	第3章 細胞と分子 1. 生体物質と細胞 2. タンパク質の構造と性質 3. 生命現象とタンパク質	①細胞を構成する物質 ①タンパク質の構造と性質 ①酵素 ②膜輸送タンパク質 ③受容体	定期 考査	実験 レポ ート	小テ スト
	10		第4章 代謝 1. 代謝とエネルギー 2. 炭酸同化 3. 異化	①同化と異化 ①光合成と葉緑体 ②光合成の過程 ①呼吸とミトコンドリア ②発酵	定期 考査	実験 レポ ート	振り 返り シー ト
	11	12	第5章 遺伝情報とその発現 1. DNAの複製 2. 遺伝子の発現	①DNAの構造と複製 ①転写 ②翻訳	定期 考査	定期 考査	小テ スト
	12	9	第6章 遺伝子の発現調節と発生 1. 遺伝子の発現調節	①遺伝子の発現調節	定期 考査	定期 考査	小テ スト
	1	16	2. 発生と遺伝子の発現	①動物の配偶子形成と受精 ②ショウジョウバエの発生における遺伝子の発現調節 ③カエルの発生における遺伝子の発現調節 ④発生過程にみられる多様性と共通性	小テ スト	定期 考査	振り 返り シー ト
3 学 期	2	14	第7章 遺伝子を扱う技術とその応用 1. 遺伝子を扱う技術	①遺伝子の単離と増幅 ②遺伝子の構造や発現を解析する方法 ③遺伝子の機能を解析する方法	定期 考査	実験 レポ ート	小テ スト
	3		2. 遺伝子を扱う技術の応用	①人間生活への応用 ②遺伝子を扱う際の課題			

担当者からのメッセージ（学習方法など）

授業内容はその時間中に消化するつもりで集中して取り組みましょう。また、復習や考査勉強は問題集や資料集を利用して行いましょう。基本的な知識を覚えるだけでは対応できないので、「なぜそうなるのか?」「仕組みはどうなっているのか?」ということを理解しましょう。

令和7年度 理科

科目名	地学基礎			学年	類型・コース	単位数
				2 年	文系	2
学習の目標	1. 地球や宇宙の歴史的あるいは空間的な広がりの中における自己の位置を確認させ、自己の重要性を認識させる。 2. 物事や事象に対する的確で正確な判断力を養うと同時に、実習を通して科学的な見方・考え方を育成する。地学的な考え方の習得を目指す。 3. 地球や地球を取り巻く環境に関わる知識を身につけるとともに、日常生活や社会との関連を図りながら、環境問題や自然災害・防災に対する意識を高める。					
使用教材	教科書：「地学基礎」（実教出版） 副教材：「ビジュアルプラス 地学基礎ノート」（実教出版）					
評価	評価法	考査の成績，パフォーマンス評価（実習への取り組み，レポートの内容等，提出物），出席状況，授業への取り組み方をもとに，「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」の観点において，総合的に評価する。				
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	地球や地球を取り巻く環境についての知識を身につけ科学的に探究するための基本的な技能を習得している。		
		b	思考・判断・表現	地球や地球を取り巻く環境について身につけた知識をもとに，仮設の設定，データの分析・解釈，推論などの方法を習得し，解釈，推論や自分の考えを適切に表現することができる。		
		c	主体的に学習に取り組む態度	地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度が養われている。		
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

期	月	時数	学習項目 ・単 元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1 学 期	4	20	1 章 地球の構成と運動 地球の構造	・ 地球の形の特徴と大きさの測定方法 ・ 地表のようす ・ 地球の内部の層構造とその状態 ・ プレーートの分布とプレートテクトニクス ・ 大地形の形成と地質構造 ・ 変成作用と変成岩 ・ プレーートの動きと地震活動 ・ プレーートの動きと火山活動 ・ 火成岩	定期 考査	定期 考査	実習 およ び レポ ート 問題 集
	5		プレートの運動				
	6		地震と火山				
	7						

2 学期	9	30	2章 大気と海洋 大気の構造と運動	<ul style="list-style-type: none"> ・高度における気圧や気温の変化 ・大気圏の層構造 ・大気中の水とその状態 ・大気の状態 	定期 考查	定期 考查	実習 および レポート
	10		大気の大循環	<ul style="list-style-type: none"> ・地球のエネルギー収支 ・大気の大循環 		実習 および レポート	問題 集
	11		海洋の構造と海水の 運動 日本の四季の気象と 気候	<ul style="list-style-type: none"> ・温帯低気圧と熱帯低気圧 ・海洋の層構造 ・海水の運動と循環 ・気象と気候 ・日本の四季 			
	12		3章 宇宙、太陽系と地球 の誕生 宇宙の誕生	<ul style="list-style-type: none"> ・宇宙の姿 ・天体の距離と光の速さ ・ビックバンと天体の誕生 	定期 考查	定期 考查	実習 および レポート
3 学期	1	20	4章 古生物の変遷と地球 環境の変化 地層のつき方	<ul style="list-style-type: none"> ・地層のつき方と堆積岩 ・地層の調べ方 	定期 考查	定期 考查	実習 および レポート
	2		化石と地質時代の区 分 古生物の変遷と地球 環境	<ul style="list-style-type: none"> ・化石 ・地層の対比と地質時代の区分 ・初期生命と大気の変化 (先カンブリア時代) ・多様な生物の出現と脊椎動物の発展 (古生代から中生代) ・哺乳類の繁栄と人類の出現 (新生代) 		実習 および レポート	問題 集
	3		5章 地球の環境 日本の自然環境 地球環境の科学	<ul style="list-style-type: none"> ・日本列島がつくる自然の特徴 ・さまざまな自然災害と防災・減殺 ・人間活動がもたらす環境問題と自然変動 ・気候変動と地球温暖化 ・地球環境と物質循環 ・地球環境に与える人間生活の影響 	定期 考查	定期 考查	実習 および レポート 問題 集

担当者からのメッセージ（学習方法など）

それぞれの現象を理解し、他の事象との関連を考えながら学習すると理解が深まります。（例えば、プレートと地震や火山の噴火の関係、マグマの性質と火成岩、変成作用と変成岩など）また、ある現象が起きる原因等を考える習慣を身につけましょう。

身近に起きる現象（気象現象（台風・竜巻等）、地震、火山活動、天体現象など）に関心を持ち、新聞やTVのニュースなどを見るようにし、「なぜ」という疑問を持つようにすると理解が深まります。

また、テストに対しては、地学用語や岩石名、化石の名前などを授業中に覚える努力をし、1週間前までには必ず復習し、その後、問題集などで理解度を確認することが大切です。一部の分野で計算も必要となりますが、簡単な比の計算程度なので、何回か練習すれば必ずできるようになります。

共通テストに対しては、基礎的なことが出題されるので、基本的な用語の意味や現象について理解し、問題文の読解とグラフやデータの読み取り方になれておけば十分対応できると思います。

令和7年度 保健体育科

科目名	体育		学年	類型・コース	単位数
			2	全員	2
学習の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習 過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
使用教材	教科書：「現代高等保健体育」（大修館書店） その他：振り返りプリント、各種目の用具				
評価	評価法	スキルテスト、観察、振り返りシート、小テスト、運動の計画、発表			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって、運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	8	体づくり運動	体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気付き、仲間と自主的に関わり合うこと。実生活に生かす運動の計画では、ねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て取り組むこと。	運動の計画、発表	観察	振り返りシート
	5	12	【選択Ⅰ】 サッカー ソフトボール バスケットボール	【選択種目】 ・各種目の特性に関心を持ち楽しさや喜びを味わえるよう、チームにおける自分の役割を自覚してその責任を果たし、互いに協力して進んで練習やゲームに取り組もうとする。また、勝敗に対して、公正な態度をとろうとする。また、練習場所などの安全性を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームをしようとする。		観察	振り返りシート
	6				スキルテスト		
	7						

2 学期	9	6	<p>体育理論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツにおける技能と体力 ・スポーツにおける技術と戦術 ・技能の上達過程と練習 ・効果的な動きのメカニズム ・体力トレーニング ・運動やスポーツでの安全の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツにおける技能と体力の関係性について理解し、技能や体力を高めようとする際に注意すべきポイントなどを考える。 ・スポーツ技能の型の違いやそれぞれの練習の行い方を理解し、自分に当てはめて考える。用具の改良やメディアの発達などによる技術や戦術、ルールの変化を理解する。 ・スポーツにおける技能の上達の過程を理解するとともに、練習によって技能の上達によりみられる過程の特徴について理解できる。 ・体の働きの開始と継続の特徴についてや調整力について理解する。 ・目的に応じたさまざまなトレーニングの方法を理解する。筋力・持久力・調整力・柔軟性を高める具体的な方法を理解する。 ・スポーツ外傷とスポーツ障害についてそれぞれ理解を深めるとともに、スポーツ活動中に起きる重大な事故の発生原因を理解し予防方法を考える。 	小テスト	観察	振り返りシート
	10	12	【選択Ⅱ】 テニス 卓球 バドミントン	<p>【選択種目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種目の特性に関心を持ち楽しさや喜びを味わえるよう、チームにおける自分の役割を自覚してその責任を果たし、互いに協力して進んで練習やゲームに取り組もうとするとともに、勝敗に対して、公正な態度をとろうとする。また、練習場所などの安全性を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームをしようとする。 	<p>運動の計画、発表</p> <p>スキルテスト</p>	観察	振り返りシート
	11						
	12	12	【選択Ⅲ】 バドミントン 卓球 バレーボール	<p>【選択種目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種目の特性に関心を持ち楽しさや喜びを味わえるよう、チームにおける自分の役割を自覚してその責任を果たし、互いに協力して進んで練習やゲームに取り組もうとするとともに、勝敗に対して、公正な態度をとろうとする。また、練習場所などの安全性を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームをしようとする。 	<p>運動の計画、発表</p> <p>スキルテスト</p>	観察	振り返りシート
3 学期	1	20	【選択Ⅳ】 ・陸上競技 ・ダンス	<p>【選択種目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種目の特性に関心を持ち楽しさや喜びを味わえるようグループにおける自分の役割を自覚してその責任を果たし、互いに協力して進んで練習や発表会に取り組もうとするとともに、自分や他者が行うことに対して、公正な態度をとろうとする。また、練習場所などの安全性を確かめ、健康・安全に留意して練習や発表会をしようとする。 	スキルテスト	観察	振り返りシート
	2						
	3		※年間で2領域以上選択するものとする				

担当者からのメッセージ（学習方法など）

○自らの体に関心を持って、毎日健康に過ごすためにはどのような運動習慣を身につけるのがよいのかを学んでいきましょう。

○生活習慣を整えて毎日を過ごす。（食事、睡眠など）

○よい意志決定行動選択ができるようになりましょう。

○授業などで学んだことを実践しましょう。

令和7年度 保健体育科

科目名	保 健		学年	類型・コース	単位数
			2	全員	1
学習の 目 標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくために資質・能力を育成する。				
使 用 教 材	教科書：「現代高等保健体育」（大修館書店） 副教材：「現代高等保健体育ノート」（大修館書店）				
評 価	評価法	各学期の期末考査（知識・技能部分 a 思考・判断・表現部分 b）、授業のプリントや板書ノート c、レポート bc、現代保健ノート ab、振り返りシート c、実習の観察 c 等を参考に総合的に評価します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身につけることができる。	
		b	思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むことができる。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目 ・単 元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1 学 期	4	6	【3単元 生涯を通じる健康】 1. ライフステージと健康 2. 思春期と健康 3. 性意識と性行動の選択 4. 妊娠・出産と健康 5. 避妊法と人工妊娠中絶	・各ライフステージと健康の関連について理解するとともに、活用できる社会からの支援について具体的に学ぶ。 ・思春期における体の変化を生物学的性別に分けて説明できるようになる。また、思春期における心の発達にかかわって起こる課題について理解し、自分の言動について振り返る。 ・性意識の男女差について相互に理解をし、適切な人間関係を築くためのヒントとする。性情報が性行動の選択に影響を及ぼすことから、情報の取捨選択をし考え方や行動の基礎を培う。 ・妊娠・出産の過程における健康課題について理解する。また活用できる母子健康サービスについて具体的理解を深める。 ・家族計画の意義と適切な避妊法について理解するとともに、人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について知り、自分の行動について考えを深める。	現 代 保 健 ノ ー ト	現 代 保 健 ノ ー ト	授 業 の プ リ ン ト 振 り 返 り シ ー ト
	5						
	6						
	7	4	6. 結婚生活と健康 7. 中高年期と健康 8. 働くことと健康	・人生における結婚という選択しについて考える機会にするとともに、心身の発達と結婚生活の関係について理解する。結婚生活を健康に送るために必要な考え方や行動を考える機会とする。 ・加齢にともなう心身の変化について具体的に理解をする。高齢社会に必要な社会的な取り組みについて考える。 ・働くことの意義と健康のかかわりについて理解する。働き方や働く人の健康問題に変化について考えを深め、自分自身が健康的に働くための資質を育てる。	現 代 保 健 ノ ー ト	現 代 保 健 ノ ー ト	授 業 の プ リ ン ト 振 り 返 り シ ー ト
					期 末 考 査	期 末 考 査	

2 学 期	9	15	9. 労働災害と健康 10. 健康的な職業生活	・労働災害の種類とその原因について具体的に理解する。労働災害を防止するために必要なことを考える機会にする。 ・職場がおこなう健康に関する取り組みについて具体的に理解するとともに、ライフワークバランスについて考え、積極的に余暇をとることの意義について考えを深める。 ・大気汚染のげんいんと健康への影響について具体的に理解を深める。 ・水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康への影響について理解する。大気、水、土壌などの地球環境の複合的な環境汚染の発生の仕組みについて理解を深めるとともに、地球規模の環境課題について考えをまとめ、プレゼンテーションを行う。	現 代 保 健 ノ ー ト	現 代 保 健 ノ ー ト	授 業 の プ リ ン ト
	10		【4 単元 健康を支える環境づくり】 1. 大気汚染と健康 2. 水質汚濁、土壌汚染と健康 (環境問題についてのレポート作成)	・環境汚染による健康への影響以外を防ぐ方法について理解する。産業廃棄物の処理について理解を深める。 ・ごみの処理の現状や課題について理解を深める。上下水道のしくみと健康にかかわる課題を考える。	現 代 保 健 ノ ー ト	現 代 保 健 ノ ー ト	振 り 返 り シ ト
	11		3. 環境と健康にかかわる対策 4. ごみの処理と上下水道の整備 5. 食品の安全性 6. 食品衛生にかかわる活動	・食品の安全生と健康とのかかわりや、食品の安全性に関する昨今の課題について理解をし、その防止方法について考える。 ・食品の安全生を確保するための行政や製造者の役割や責任について理解する。また、食品の安全性を確保するために自分たちができることを考える。	現 代 保 健 ノ ー ト	現 代 保 健 ノ ー ト	レ ポ ー ト
	12				期 末 考 査	期 末 考 査	
3 学 期	1	10	7. 保健サービスとその活用 8. 医療サービスとその活用	・保健行政の役割や保健行政サービスの活用について具体的に理解する。 ・日本における医療保険のしくみについて理解し、昨今の課題についても考える機会とする。また、さまざまな医療機関の役割について理解する。	現 代 保 健 ノ ー ト	現 代 保 健 ノ ー ト	授 業 の プ リ ン ト
	2		9. 医薬品の制度とその活用 10. さまざまな保健活動や社会的対策 11. 健康に関する環境づくりと社会参加	・医薬品の正しい使用方法について理解を深めるとともに、医薬品の安全性を守るしくみや昨今の課題について考えを深める。 ・国際機関・民間機関などの保健活動について具体的に理解する。行政機関による社会的対策について理解をする。	現 代 保 健 ノ ー ト	現 代 保 健 ノ ー ト	振 り 返 り シ ト
	3			・健康の保持増進のための環境づくりについて理解するとともに、環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながることにについて考える。	期 末 考 査	期 末 考 査	

担当者からのメッセージ（学習方法など）

保健の授業は、あなたたちの現在から長い将来につながる人生を健康に生きるためにとても重要な科目です。現代の日本が抱える健康課題についての知識を増やし、考えを深めることができるように期待しています。ここから学んだことを、自分の人生で実践し、健康な人生を歩む基礎にしてください。

令和7年度 芸術科

科目名	音楽Ⅱ		学年	類型・コース	単位数
			2	文系	2
学習の目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成する。				
使用教材	教科書：MOUSA2（教育芸術社） 副教材：学習プリント（自作のもの）				
評価	評価法	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）及び評点（1～5の5段階）にまとめます。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関り及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	
		b	思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関りについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・題材	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	6	○日本歌曲を味わう (浜辺の歌)	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞と旋律とイントネーションの関係を理解する。 ・歌詞の内容や曲の美しさを感じながら、表現を工夫して歌う。 	学習プリント 実技テスト	学習プリント 実技テスト	学習プリント 観察
	5	5	○ポップスの特徴を理解して歌おう (糸、ハナミズキ他)	<ul style="list-style-type: none"> ・ポップスのリズムにのって歌ったり、曲に込められた思いを味わったりしながら、曲想と歌詞の関りなどを理解し、個性豊かに歌う。 	学習プリント 聴取	学習プリント 聴取	学習プリント 観察
	6	7	○表現を工夫してギターで弾き語りをしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ギターの音色や表現の特徴を味わうとともに、奏法を身に付け、音色や表現を工夫して個性豊かに演奏する。 	実技テスト 実技テスト	実技テスト 実技テスト	学習プリント 観察
	7	2	○日本の伝統音楽を味わおう	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土芸能を鑑賞したり調べたりしながら、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わり、音楽表現の共通性や固有性について考える。 ・各地に伝わる芸能に親しみ、その良さを味わう。 	学習プリント 聴取	学習プリント 聴取	学習プリント 観察

2 学 期	9	6	○ソルフェージュ・楽典	・楽譜の正しい読み方、書き方を身に付け、表現に生かすようにする。	学習プリント 発表	学習プリント 発表	学習プリント 観察
	10	8	○表現を工夫してリコーダーを演奏しよう (夏は来たりぬ、冬、ソナチネ他)	・リコーダーの独奏やアンサンブルを通して、曲にふさわしい奏法を身に付ける。 ・音色や表現を工夫し、試行錯誤しながら器楽表現を工夫する。	学習プリント 実技テスト	学習プリント 実技テスト	学習プリント 観察
	11	10	○声部の関りを味わって合唱する	・他者との調和を意識して声部のバランスや、ハーモニーの美しさに留意してアンサンブルの良さを味わう。 ・曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、自己のイメージを持って創意工夫して合唱する。	学習プリント 聴取	学習プリント 聴取	学習プリント 観察
	12	6	○日本や諸外国の歌曲に親しみ、表現を工夫して独唱しよう (からたちの花、Vaga luna che inargenti など)	・さまざまな言語による歌曲に親しみ、それぞれの特徴を理解し、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、表現を工夫しながら独唱する。	学習プリント 聴取	学習プリント 聴取	学習プリント 観察
3 学 期	1	6	○西洋音楽史	・バロック時代から近現代までの音楽史について学び、楽曲を鑑賞する。 ・作曲家の生涯を学び、楽曲の理解を深める。	学習プリント	学習プリント	学習プリント 観察
	2	4	○ミュージカルナンバーを歌おう	・ミュージカルを鑑賞し、歌詞の内容や登場人物の心情を理解しながら、曲にふさわしい表現を工夫して歌う。	学習プリント 聴取	学習プリント 聴取	学習プリント 観察
	3	10	○アンサンブルを楽しもう	・これまでに学んだことを活かして、楽曲を選び、アレンジしながら他者と協働してアンサンブル演奏し、発表する。	学習プリント 聴取	学習プリント 聴取	学習プリント 観察

担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・演奏の授業では、歌唱・器楽の分野で、バラエティーに富んだ音楽体験ができるようになっています。さまざまなジャンルに挑戦して、音楽を一生楽しめるような技能を身に付けましょう。
- ・創作の授業では、自分でつくった作品を発表したり、作品について意見を交換したりする機会を設けています。音楽を通してプレゼンテーションの力を身に付けましょう。
- ・鑑賞の授業では、聴くだけでなく音楽の構造や文化的・歴史的背景などについても学びます。音楽的な見方・考え方を身に付けましょう。

令和7年度 芸術科

科目名	美術Ⅱ		学年	類型・コース	単位数
			2	文系	2
学習の目標	1 年次の学習で培った美術のスキルを生かし、各領域（絵画・デザイン・彫刻・工芸・メディア表現）の内、特に絵画・彫刻・デザインの知識・技術を身につける。				
使用教材	教科書：美術 2（光村図書） 副教材：学習プリント（自作または他の教材から引用）				
評価	評価法	制作作品の課題進捗状況、学習の取り組み状況（観察力や発表力）、学習プリントの記入状況を総合的に判断して決定します。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	対象や事象を捉える観点を大切にしているか。また、表現に必要な創意工夫をしているか。	
		b	思考・判断・表現	領域のテーマ性を大事にし、自身が覚えた感動を鑑賞者に伝える工夫をし、表現しようとしているか。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	美術文化の意義を理解し、自身が表現することに喜びを感じて取り組んでいるか。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・題材	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	2	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 授業の進め方や評価について理解する。 美術の領域を理解する。 デッサンの基礎知識を学ぶ 	教科書	プリント	観察
	5	6	絵画① 絵画の基礎を学び直す	<ul style="list-style-type: none"> 絵画とデッサンとの関わりを学ぶ。 空間を出すという考え方を身につける。 色彩を学び直す。特に明暗をだすために補色の考え方を学ぶ。 光と影の考え方彩を学ぶ 	教科書 実習 教科書	プリント プリント	観察 観察 観察
	6	10	絵画② 静物を描く	<ul style="list-style-type: none"> ①で学んだことを応用して実際の静物を描く。 実感できたことを実践して自身のスキルにしていく。 	実習		観察
	7	2	合評	<ul style="list-style-type: none"> お互いの作品を鑑賞し、意見・感想を述べ合い、今後の参考になるようにする。 	観察	発表	プリント
2学期	9	2	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 彫刻とは何かを学ぶ。 題材と材料の関係を学ぶ。 	教科書	プリント	観察

2 学期	9 10 11	26	彫刻 抽象彫刻の制作	<ul style="list-style-type: none"> ・抽象とは何かを学ぶ。 ・材料との向き合い方を学ぶ。 ・道具の使い方や特質をしっかりと理解する。 ・計画的に仕事を進めることの重要性を認識する。 	実習	プリント プリント	観察 観察 観察
	12	2	合評	・お互いの作品を鑑賞し、意見・感想を述べ合い、今後の参考になるようにする。	観察	発表	観察 プリント
3 学期	1	2	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・色の持つそれ自体の特質をおさらいする。 ・一年次のポスターデザイン制作を想起しデザインが社会に果たす役割を今一度理解しなおす。 	教科書	プリント	観察
		4	色彩表現の基礎	・絵画でもふれたが、色彩とムードを醸し出す色の組み合わせの方法など学び直す。	教科書	プリント	観察
	2	12	色彩表現	・色自体が持つ「強さ・穏やかさ・さわやかさ・優しさ・暖かさ・涼しさ」などを理解し、色彩であるテーマを表現する。	実習		観察
	3	2	合評 1年間のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの作品を鑑賞し、意見・感想を述べ合い、今後の参考になるようにする。 ・この1年で、自分なりに気がついたことや、身についたと思われるスキルや考え方をまとめてみる。 		発表 プリント	

担当者からのメッセージ（学習方法など）

・評価は結果として出来上がった作品の善し悪しだけでつけるものではありません。そこに到るまでの過程が大切です。どれだけ向き合ったか、自身の思いを表現しようとしたか、また工夫しようとしたかが大切です。そこから、「感想や思いを伝える力」（コミュニケーション力）や「他者の作品を観る力」（人に対する思いやり）なども生まれます。そういうものを総合的に判断しています。

・わからないことはわかった顔をせず、また遠慮せずにどんどん質問しましょう。

令和7年度 芸術科

科目名	書道Ⅱ		学年	類型・コース	単位数
			2	文系	2
学習の目標	(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。 (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。				
使用教材	教科書：光村図書「書Ⅱ」 副教材：自作プリント				
評価	評価法	作品・作品意図カード・振り返りシートを観点別に評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解している。 書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。	
		b	思考・判断・表現	書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	2	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 書体の変遷と古代の文字を知る。（鑑賞） 篆書の歴史的背景と特徴を知る。 			
		1	漢字の学習① 篆書	<ul style="list-style-type: none"> 基本線の筆法 逆筆藏鋒を習得する。 	作品		
		1		<ul style="list-style-type: none"> 基本の結構と筆順 「木田」で篆書独特の字形と筆順を知る。 	作品		プリント
	5	2		<ul style="list-style-type: none"> 自分の氏名を小篆で書く 	作品		プリント

	6	1 2	漢字の学習② 篆刻	<ul style="list-style-type: none"> 氏名印の印稿を作る <ul style="list-style-type: none"> ①印のルールを知る ②印稿を鉛筆で作る 字面を考慮し印のデザインを考える。 ③印稿を筆で作る（半紙大） 小篆の筆法を守りながら印稿を仕上げる。 氏名印を彫る <ul style="list-style-type: none"> ①印面の整齊と印稿の転写 ②印の彫り方を知る、練習する。 ③印を彫る。 ④印影を完成させる 印箋に押印し、小筆で氏名入れる。 		作品 作品	プ リ ン ト プ リ ン ト
		2					
		1 1 6 1					
						作品	プ リ ン ト
2 学 期	9 10	2 2 2	漢字の学習② 隸書	<ul style="list-style-type: none"> 隸書の成り立ち（含鑑賞）と基本筆法 <ul style="list-style-type: none"> ①篆書から隸書への変遷を確認し、隸書の特徴を知る。 ②隸書の基本筆法を習得する。 ③波磔を習得する。 隸書の臨書 <ul style="list-style-type: none"> 曹全碑「平安」 扁平な字名の特徴を確認する。 創作 <ul style="list-style-type: none"> 曹全碑の中から集字して半紙に創作をする。 	作品 作品	作品 作品	ブ リ ン ト ブ リ ン ト
		2					
		10					
		2					
	11	2 2	創作① 隸書創作	<ul style="list-style-type: none"> 隸書で創作をする <ul style="list-style-type: none"> ①楷書「有志」を隸書で創作する <ul style="list-style-type: none"> ・隸書の筆法を活かして書く。 ・扁平な字形にする工夫を知る。 軸作品を創ろう <ul style="list-style-type: none"> ① 隸書で新年にふさわしい四字熟語を書く。 ・隸書の特徴を生かし、創作する。 裏打ち 軸仕立て 	作品 作品	作品 作品	ブ リ ン ト ブ リ ン ト
	12	2 2	創作② カレンダーを創ろう (漢字かな交じりの書)	<ul style="list-style-type: none"> 2026年4月始まりのカレンダーを制作する。 書道Ⅰから学んだすべての書体を生かして6つの作品を制作し、カレンダーに仕上げる。 構想・撰文 <ul style="list-style-type: none"> ① 漢字かな交じりの書創作 		作品	ブ リ ン ト
3 学 期	1 2	2 2 2 2 2 4	創作② カレンダーを創ろう	<ul style="list-style-type: none"> 各書体の筆法や結構を振り返り、創作作品を創る。 ② 楷書創作 ③ 行書創作 ④ 隸書創作 ⑤ 篆書創作 ⑥ 書体自由創作 裏打ち 製本 		作品 作品 作品 作品 作品 作品	プ リ ン ト プ リ ン ト プ リ ン ト
	3	4 2	創作③ 終了製作 (漢字かな交じりの書)	<ul style="list-style-type: none"> 自作の言葉で作品を創る 3年生への決意の言葉を額作品に仕立てる。 裏打ち 額装 		作品	プ リ ン ト

担当者からのメッセージ（学習方法など）

芸術科書道は、整った文字の美しさだけを追求する授業ではありません。幅広い表現活動としての「書」を味わい、書をとおして「自分らしい表現」が出来るようになることが目標です。基礎的な知識や技能を習得し、今伝えたい思いを表現できるようになりましょう。

令和7年度 外国語科

科目名	英語コミュニケーションⅡ		学年	類型・コース	単位数
			2	全員	4
学習の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を更に育成するとともに、聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことの5つの能力を高める。				
使用教材	教科書：Big Dipper English Communication Ⅱ 副教材：Big Dipper English Communication Ⅱ ベーシックノート Big Dipper English Communication Ⅱ ワークブック				
評価	評価法	課題考査・定期考査、実技テスト、小テスト、授業課題・提出物、授業態度等を総合して評価します。1学期、2学期、3学期の成績を総合的に判断して、年間の学習成績とします。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	英語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きについての知識を深め、その知識を土台に、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	
		b	思考・判断・表現	知識および技能を活用して課題を解決するなどのために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識および技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力などを身に付けたりすることにむけた粘り強い取組の中で自らの学習を調整しようとしている。	
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	40	Lesson 1 Why Don't You Come to School in Pajamas?	海外のユニークな学校行事【学校生活 異文化理解】 受動態【復習】／不定詞【復習】／ 〈助動詞+be+過去分詞〉【復習】	課題考査 小テスト	課題考査 小テスト	課題考査 小テスト 振り返りシート
	5		Lesson 2 Is Seeing Believing?	楽しい「だまし絵アート」【芸術 社会】 関係代名詞の限定用法【復習】／関係代名詞の継続用法①／SV0 (0 = wh-節)／現在完了【復習】／過去完了【復習】	中間考査	中間考査	中間考査
	6		Lesson 3 Do You Get Enough Sleep?	よい睡眠をとるには【健康 生活】 仮定法過去【復習】／関係代名詞 what【復習】／関係副詞 when【復習】／関係副詞 where【復習】	小テスト	小テスト	小テスト
	7		Lesson 4 Do You Want to Speak English like a Native Speaker?	英語の多様性について【言語 コミュニケーション】 関係代名詞の継続用法②／関係副詞 why【復習】／SV0102 (02 = that 節)	期末考査 パフォーマンス (スピーキングテスト)	期末考査 パフォーマンス (スピーキングテスト)	振り返りシート パフォーマンス (スピーキングテスト)

2 学 期	9	60	Lesson 5 Universal Design: Convenient for All?	ユニバーサルデザインの役割と課題【社会 副詞】 現在分詞の分詞構文【復習】／進行形の受動 態〈be 動詞＋being＋過去分詞〉／関係副詞 where の継続用法／ 形式目的語 it	課題 考查 小テスト	課題 考查 小テスト	課題 考查 小テスト
	10		Lesson 6 Wakamiya Masako: The World's Oldest Game App Developer	81 歳でゲームアプリをつくった若宮正子さ ん【人物 人生】 SVC (C=現在分詞/過去分詞)／受動態の分詞 構文／〈助動詞＋have＋過去分詞〉／SVOC (C= 過去分詞)	中間 考查	中間 考查	中間 考查
	11		Lesson 7 Learning from Nature	自然界の生物をヒントにして開発された もの【技術革新 自然】 省略／動名詞の意味上の主語／未来進行形 〈will be＋～ing〉／完了形の不定詞〈to have＋過去分詞〉	小テスト パフォー マンス (スピー チ発表)	小テスト パフォー マンス (スピー チ発表)	小テスト パフォー マンス (スピー チ発表)
	12		Lesson 8 The Wisdom of Preserving Food	保存食の魅力と可能性【文化 食生活】 仮定法過去完了／〈as if＋S'＋仮定法過去〉 ／Without ～／命令文 (レシピ)【復習】	期末 考查	期末 考查	期末 考查 振り返 りシート
3 学 期	1	40	Lesson 9 The Sharing Economy: Something for Everyone?	シェアリングエコノミーとは【経済 労働】 未来完了〈will have＋過去分詞〉／無生物主 語構文①〈enable＋0 (人)＋to-不定詞〉／ SVC (C = that 節)／無生物主語構文②〈make ＋0 (人)＋原形不定詞〉	課題 考查 小テスト	課題 考查 小テスト	課題 考查 小テスト
	2		Lesson 10 Sand and Concrete: A Basis of Our Life	知られざる世界の砂不足について【環境 社 会】 関係副詞 when の継続用法／複合関係代名詞 whatever／ 倒置	期末 考查 パフォー マンス (ライ ティング テスト)	期末 考查 パフォー マンス (ライ ティング テスト)	期末 考查 振り返 りシート パフォー マンス (ライ ティング テスト)
	3		Power Up Section (LESSON 1～10)	各レッスンについて、さらに理解を深める			

担当者からのメッセージ (学習方法など)

- ・ 予習・復習を習慣づけよう。
- ・ 授業に集中しよう。
- ・ ペアやグループ学習に積極的に参加しよう。
- ・ 文構造や文法事項を理解し、フレーズごとに前から後ろへ英文を理解できるようになろう。
- ・ 積極的に発表や質問をしよう。
- ・ 提出物は不備のないように仕上げ、期限をしっかりと守って提出しよう。

科目名	論理・表現Ⅱ	学年	類型・コース	単位数
		2	全員	2
学習の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を更に育成するとともに、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの3つの能力を高める。			
使用教材	教科書：「be Clear English Logic and Expression I」(いいずな書店) 「be Clear English Logic and Expression II」(いいずな書店) 副教材：「be Clear Essential Grammar Book」(いいずな書店) 「be Clear Grammar Book」(いいずな書店) 「総合英語 be 4 th Edition」(いいずな書店) 「英文法語法 Vintage 4 th Edition」(いいずな書店)			
評価	評価法	予習の状況、授業中の態度、小テスト、提出物等を加味し、定期考査を中心に、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度についての3つの観点から総合的に評価する。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	日常的な話題について、情報や考え、気持ちなどを伝えあったりするための基本的な語句や、論理の構成、展開を理解している。
		b	思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	知識および技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力などを身に付けたりすることにむけた粘り強い取組の中で自らの学習を調整しようとしている。
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。			

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	20	be Clear English logic and Expression I Lesson 17 Cities and Towns	都市・町に関する会話を聞いて理解し、質問に答える。都市・町に関する情報を読んで理解し、文章を書いたり、発表したりする。(関係副詞・複合関係詞)	中間考査	中間考査	課題考査 暗唱文 テスト 提出物
	5		Lesson 18 Living Environment	生活環境に関する会話を聞いて理解し、質問に答える。生活環境に関する情報を読んで理解し、文章を書いたり、発表したりする。(原級・比較級)			
	6		Lesson 19 Social Problems	社会問題に関する会話を聞いて理解し、質問に答える。社会問題に関する情報を読んで理解し、文章を書いたり、発表したりする。(最上級)	期末考査	期末考査	暗唱文 テスト 提出物
	7		Lesson 20 Making a Wish	願い事に関する会話を聞いて理解し、質問に答える。願い事に関する情報を読んで理解し、文章を書いたりする。(不定詞の形容詞・副詞用法)			
	8		be Clear English logic and Expression I Lesson 1 Your Interests	趣味やクラブ活動に関する文章を読んだり聞いたりして理解する。趣味やクラブ活動について話したり文章を書いたりする。(動詞の時制)	パフォー マン ステス ト(ラ イティ ング)	パフォー マン ステス ト(ラ イティ ング)	パフォー マン ステス ト(ラ イティ ング)
	7		Lesson 2 Your Daily Life	日常生活に関する文章を読んだり聞いたりして理解する。日常生活について話したり文章を書いたりする。(不定詞(名詞用法)・動名詞・名詞節)			
	8		夏休みの課題				

2 学期	9	30	Lesson 3 Your School Life	学校生活に関する文章を読んだり聞いたりして理解する。学校生活について話したり文章を書いたりする。(助動詞)	中間 考查	中間 考查	課題 考查 暗唱文 テスト 提出物			
	10		Lesson 4 Media Literacy	ソーシャルメディアに関する文章を読んだり聞いたりして理解する。ソーシャルメディアについて話したり文章を書いたりする。(形容詞の働き・分詞の形容詞用法)	期末 考查 パフォー ーマン ステス ト(スピー ーキン グ)	期末 考查 パフォー ーマン ステス ト(スピー ーキン グ)	暗唱文 テスト 提出物 パフォー ーマン ステス ト(スピー ーキン グ)			
			Lesson 5 Helping Others	ボランティア活動についての文章を読んだり聞いたりして理解する。ボランティア活動について話したり文章を書いたりする。(様々な表現を使った形容詞句)						
	11		Lesson 6 Introducing Your Town	自分の住む町や地域についての文章を読んだり聞いたりして理解する。自分の住む町や地域について話したり文章を書いたりする。(関係代名詞・関係副詞)						
			Lesson 7 Languages of the World	世界の言語についての文章を読んだり聞いたりして理解する。世界の言語について話したり文章を書いたりする。(副詞) 想像についての文章を読んだり聞いたりして理解する。想像について話したり文章を書いたりする。(不定詞副詞用法・分詞)						
			Lesson 8 Imaging the Future	幸福・ストレスについての文章を読んだり聞いたりして理解する。幸福・ストレスについて話したり文章を書いたりする。(さまざまな意味を表す副詞節)						
12	Lesson 9 Happiness and Stress	各国のデータ比較についての文章を読んだり聞いたりして理解する。各国のデータ比較について話したり文章を書いたりする。(原級・比較級・最上級)								
	Lesson 10 Comparing Countries									
冬休みの課題										
3 学期	1	20	Lesson 11 Cultural Diversity	文化の多様性についての文章を読んだり聞いたりして理解する。文化の多様性について話したり文章を書いたりする。(仮定法)	学年 末 考查 パフォー ーマン ステス ト(プレ ゼン テーシ ョン)	学年 末 考查 パフォー ーマン ステス ト(プレ ゼン テーシ ョン)	課題 考查 暗唱文 テスト 提出物			
	2		Lesson 12 Japanese Customs	日本の文化についての文章を読んだり聞いたりして理解する。日本の文化について話したり文章を書いたりする。(要求や必要、認識を表す表現・時制の一致・話法)						
			Lesson 13 Population Issues	人口問題についての文章を読んだり聞いたりして理解する。人口問題について話したり文章を書いたりする。(存在や変化の表現)						
			Lesson 14 Rights and Equality	権利と平等についての文章を読んだり聞いたりして理解する。権利と平等について話したり文章を書いたりする。(使役動詞・知覚動詞)						
	3		Lesson 15 Think Globally, Act Locally	世界の問題についての文章を読んだり聞いたりして理解する。世界の問題について話したり文章を書いたりする。(日本語とは違う英語らしい表現)						
			春休みの課題							

担当者からのメッセージ (学習方法など)

- ・ 予習・復習を習慣づけよう。
- ・ 音読を入れよう。
- ・ 積極的に発表や質問をしよう。
- ・ 仲間と共に課題を解決しよう。
- ・ 提出物は期限を守って提出しよう。

令和7年度 家庭科

科目名	家庭基礎	学年	類型・コース	単位数
		2	全員	2
学習の目標	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>			
使用教材	<p>教科書：家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）</p> <p>副教材：生活ハンドブック 資料&成分表（第一学習社）</p>			
評価	評価法	定期考査、課題プリント、提出物、自宅学習課題、授業態度等を総合して評価する。1学期、2学期、3学期の成績を総合的に判断して、年間の学習成績とする。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
	上に示す各観点に基づいて評価し、観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。			

期	月	時数	学習項目・単元	学 習 内 容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4	2	生涯を見通す	<ul style="list-style-type: none"> 自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。 人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解するとともに、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深める。 生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について考察し、生活設計を工夫する。 生涯発達の視点で青年期の課題を理解する。 家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深める。 	定期考査・実験実習	課題プリント・グループワーク・実験実習	課題プリント・グループワーク・実験実習・授業態度
	5	7	人生をつくる				
	6	5	子どもと共に育つ	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子育て支援について理解するとともに、乳幼児と適切に関わるために基礎的な技能を身に付ける。 子どもを生み育てることの意義について考えるとともに、子どもの健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について考察する。 			
		3	超高齢社会を共に支える	<ul style="list-style-type: none"> 高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳と社会環境について理解し、生活支援の基礎的な技能も身に付ける。 			

1 学期	7	2	共に生き、共に支える	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察する。 ・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解する。 ・家庭や地域及び社会の一員として自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について考察する。 			
		1	ホームプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事の切り抜きから、家庭と社会の関わりを理解する。 			
2 学期	9	14	食生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。 ・自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深める。 ・安全で衛生的な食生活を営むための知識と技能を身につける。 ・安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考える 	定期 考査 ・ 実験 実習	課題 プリント ・ グループ ワーク ・ 夏課題 ・ 実験 実習	課題 プリント ・ グループ ワーク ・ 夏課題 ・ 実験 実習 ・ 授業 態度
	10						
	11	14	衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・被服の役割を理解する。 ・被服表示を参考に、目的に応じた被服入手と着装ができるように、また手持ちの被服を長期的に着用することができるよう、被服の材料や管理、洗濯や手入れについて科学的に理解する。 ・環境に配慮した衣生活について考え、資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す。 			
	12	2	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。 			
3 学期	1	7	住生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解し、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身につける。 ・気候や風土の違い、時代の変化によって異なる住文化について理解する。 	定期 考査 ・ 実験 実習	課題 プリント ・ グループ ワーク ・ 冬課題 ・ 実験 実習	課題 プリント ・ グループ ワーク ・ 冬課題 ・ 実験 実習 ・ 授業 態度
	2	11	経済生活を営む	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会保障制度などと関連付けて考察する。 ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、生活情報を適切に収集・整理し、責任ある消費者としての行動を考察し、工夫する。 			
	3	2	持続可能な生活を営む	<ul style="list-style-type: none"> ・生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解するとともに、安全安心な生活と消費について考察し、持続可能な社会を目指して主体的に行動できるようライフスタイルを工夫する。 			

担当者からのメッセージ（学習方法など）

家庭基礎は、自分自身を見つめ、自分を取り巻く環境のあらゆる事柄について学ぶ分野です。各自の家庭生活や地域の生活に関心を持ち、問題意識を持って生活してほしいと思っています。さらに、授業で学んだ知識を家庭生活で応用・実践してほしいです。そうすることで、今後必要となる生活力が身につき、自身の生活がより豊かになります。

目標は自立です。18歳で成人することを自覚し、授業を通して自立した大人として生きていける準備をしていきましょう。また、授業に集中すること、積極的に発表すること、ペアワーク・グループワークに積極的に取り組むこと、提出物は不備なく仕上げ、期限をしっかりと守って提出することなど、授業に対しても自立して取り組んでもらいたいと思います。